

岸田首相にお伝えしたこと

能登森林組合 技能職員の大地敦子と申します。

本日はご招待いただきまして、ありがとうございます。

私は里山風景広がる兵庫県丹波市で育ち、大学進学を機に上京し、在学中の一年間、ここ能登で実践型インターンシップ「能登留学」にチャレンジしました。その際、「森と海が繋がっていることに気づいたこと、私の大好きな祭りに使われる木材がないと知ったこと」がきっかけで、私が愛する能登の里山里海、お祭りや伝統工芸を次の世代に受け継ぎたいと思い、林業という道を選び、2年前に就職し、実際に木を植えるところから木を育て、チェーンソーで木を伐採するところまでの仕事を任せただけできるようになりました。雨にも風にも寒さにも暑さにも負けず、毎日楽しく仕事をしています。

日々一緒に仕事をする方々の平均年齢は50歳を超えており、この地域の山を守る人たちはどんどん減る一方です。日本の国土の7割は山林です。ウッドショックもあり国内での木材生産やカーボンニュートラルの実現のための森林整備など、これまで以上に国内林業が重要になってきます。しかし、林業の仕事はあっても人材が足りません。どのような高性能林業機械やIT技術があっても、山と向き合う技術者が必要です。私たちがいなければ里山は守れません。林業が衰退すれば、木材産業のみならず、農業も漁業も持続できません。岸田総理には、この地域でこれまで林業を支えてきた方も、これから林業の担い手になる方も、満足して働くことのできるよう、若い人が安心してこの職業につけるような政策・ご支援をお願いしたいです。

また、能登の里山で100基もの風力発電の計画もありますが、500年以上続くお祭りや輪島塗に使われる木材が100年後も500年後もきちんと生産できるように、経済だけでなく、文化の視点も取り入れた山づくりをしたいです。このまちらしさを受け継ぐため、それぞれの市町に専門家の配置も必要かと思えます。

私たちは毎日山の神様に祈りながら、安全作業に努めています。山は生き物であり、林業は、山に、自然に生かされている私たちの暮らしを守る大切な仕事です。

以上が、岸田総理にお伝えさせていただきたいことです。
ありがとうございました。